

鹿児島県支部だより

前田 忠

1 はじめに

鹿児島県透析医会は、信楽園病院の平沢由平先生と大分県工藤医院の工藤寛昭先生のお勧めで昭和61年2月9日に発足しました。初代会長の牧角仙蒸先生が平成11年2月に御逝去されたため、同年5月より小生が会長をさせていただいております。牧角仙蒸先生が鹿児島県医師会の副会長をされておられた関係もあり、鹿児島県透析医会は鹿児島県医師会の専門部に所属しております。平成24年11月27日現在の会員数74名（施設長55名、勤務医19名）です。主な活動としては、各種講演会の開催、災害に対する備え、透析医療保険情報の収集や現状報告、CKD対策、腎移植普及推進活動、医師会や関係官庁との連携、会員相互の親睦事業などです。

2 平成24年の主な活動

5月14日：鹿児島県透析医会学術講演会を城山観光ホテルで開催し、一陽会クリニックの碓井公治先生に「ヘモグロビン変動の安定化対策」という題で講演していただきました。

5月27日：鹿腎協創立40周年記念式典が鹿児島市民文化ホールで開催され、宮本全腎協会長、前田鹿児島県透析医会会長、伊東鹿児島県知事、金子鹿児島県議会議長、池田鹿児島県医師会会長の祝辞がありました。鹿腎協の組織率は平成24年2月には45.2%でしたが、12月現在で38%に減少しております。透析患者の高齢化が進む中で、腎不全医療を守ってゆくためには、

患者会の組織率向上は不可欠だと思います。

6月21日：第57回日本透析医学会が札幌で開催され、当日、日本透析医会統計調査地域協力委員会が札幌京王プラザであり、2011年末調査の現況、2012年新規調査項目等について意見交換がありました。鹿児島県は2011年末の調査で1施設だけが未提出でしたので、今年は提出率100%を目指して頑張ります。

6月22日：適正透析普及部会（支部長会）が北農会館であり、日本透析医会が公益社団法人になった事、各支部が開催する研究会、講演会、公募研究助成事業等に援助を行っている事が報告されました。また山川常務理事より、日本透析医会が実施したアンケート調査結果「透析医療における職業別業務分担に関する調査報告」が、杉崎専務理事より「透析患者の高齢化による問題点と将来予測について」が報告され、当県が直面している問題を他県も同様に抱えている実態が理解できました。引き続き第17回透析保険審査委員会が開催され、中島先生と小生が出席しました。幸い当県では透析保険審査上特別大きな問題点は無いようです。

6月24日：第13回日本透析医会災害情報ネットワーク会議が北農会館であり、上山先生に出席していただきました。鹿児島県は台風や豪雨災害が毎年のようにありますし、目の前の桜島は毎日数千mの噴煙を上げております。桜島の地下には大正3年の大噴火時と同程度のマグマが貯まっているそうですし、桜島の海底噴火により鹿児島湾沿岸に5m以上の津波が発生し、鹿児島市で震度7の地震が起これば鹿児島防災計

画有識者会議が試算しておりますので、桜島在住の透析患者名簿確認や避難先の確認を行っております。

7月3日：九州電力社長あてに「計画停電に関する九電へのお願いについて」という要望書を出し、透析医療施設を計画停電の対象外として頂くよう要望致しました。九電からの回答は「国からの指示に基づき、公平性の観点から、要望に応じることはできません。」というご返事を頂きました。九電でも福島第一原発事故以降、原発6基すべてを停止しており、火力発電焚き増しの燃料費や他社からの購入電力料増加のため赤字転落となっており、平成25年4月から8.5%の値上げ申請をしているとのことで、透析施設に対する経済的影響が心配されます。

7月14日：鹿児島県透析医会総会・学術講演会が城山観光ホテルで開催され、大阪大学教授椿原美治先生に「新しいESA製剤をどのように使い分けるか？」という演題でご講演賜りました。翌日、鹿児島県透析医会親善ゴルフ大会（ダイア会）を南国CCで行いました。鹿児島県透析医会の先生方も高齢化が進みゴルフを止めておられる方が多いため、参加者は4名で一組の淋しい会に終わりました。

7月17日：鹿児島県透析医会学術講演会を城山観光ホテルで行い、福岡大学医学部内分泌糖尿病内科の野見山崇先生に「血管を護るための糖尿病診療ステラテジー～脳・心・腎～」という題でご講演賜りました。

7月28日：九州医療セミナーが福岡天神センターで開催され、上山先生に鹿児島県の災害対策の取り組みについて発表していただきました。

8月10日：衛星携帯電話ワイドスターII（可搬式）を鹿児島県透析医会災害対策本部、副本部（鹿児島地域、北薩地域、始良・伊佐地域、南薩地域、大隅地域、大島地域、熊本地域の7地域）に設置しました。

8月23日：第2回鹿児島県腎と糖尿病研究会が城山観光ホテルで開催され、鹿児島大学医学部糖尿病・内分泌内科の西尾善彦先生に「合併症予防をみすえた糖尿病治療—腎症予防の観点から—」と題してご講演いただきました。

8月31日：第13回日本透析医会災害時情報伝達訓練があり、災害時の透析医療援助体制を全国レベルで、コンピューター上で確認しております。

9月13日：第2回鹿児島県腎とミネラル代謝研究会が城山観光ホテルで開催され、東海大学医学部の深

川雅史先生に「CKD-MBDの新しい治療、改訂ガイドラインをふまえて」という題でご講演いただきました。

10月21日：平成24年度腎移植普及推進キャンペーンが鹿児島県民交流センターであり、鹿児島県透析医会から6名が参加して腎移植の普及推進のお願いをしています。

11月6日：鹿児島県透析医会が大塚製薬と共催で開催したエルシトニン講演会で、四枝内科の四枝先生に「CKDにおけるカルニチン補充療法の有用性」という題で御講演賜りました。

11月18日：第80回移植セミナーが鹿児島県民交流センターで開催され、白石病院の富田先生に「長期生着を目指して」という題で御講演賜り、「腎移植の体験談」では、自分の娘に腎臓を提供された母親がドナーの立場から話をされました。

11月22日：鹿児島県透析医会役員と鹿腎協役員との懇談会が石原荘本店で開催され、会員の組織率向上の問題やCKD対策の進め方、透析患者の介護や通院手段の確保等について話し合いました。

3 おわりに

日本の透析患者数は平成23年末現在で304,592名となり、はじめて30万名を超えました。年間の透析患者の増加数は6,708名に留まっております。日本全体でみると透析患者の増加は鈍っているようです。鹿児島県では平成23年末で5,189名が透析を受けています。人口100万人当たりの透析患者数で比較すると全国平均では2,385名ですが、鹿児島県は3,053名で全国平均より668名多く、徳島県、熊本県、宮崎県、大分県について5番目に多い数です。平成23年の1年間に鹿児島県で727名が透析導入となっております。平成23年の透析導入患者数を人口100万人当たりで比較しますと、全国平均は297名ですが、鹿児島県は428名で全国平均より131名多く、徳島県について2番目に多い数です。

透析患者数を減らすために、鹿児島県透析医会としても昭和48年から学校腎臓検診を始め、昭和61年から糖尿病検診も参入し、現在87名の小児糖尿病を管理しております。学校での検診体制は整っているのですが、卒業後の検診体制が充分でないため、今後は長年培ってきた学校腎臓・糖尿検診を参考にして、大学、医師会、行政と連携して、透析導入を減らす努

力をしてゆきたいと考えております。

透析患者の高齢化，認知症や種々の合併症，介護や送迎，災害に対する備え等，色々の問題がありますが，

会員一同団結して，鹿児島県のより良質の透析医療を目指して努力していきたいと思っております。